



ニホンアマガエル

《私が子どもだった頃（前編）》 六浦3丁目在住 高桑 正敏

侍従川への流れ

私は団塊の世代のピーク、つまり1947年（昭和22年）10月生である。いま住んでいる場所（六浦3丁目）で生まれ、そこから居を移したのは新婚時代の2～3年間なので、生粋の「六浦っ子」に近い。昔は1階建てで狭かったが、両親と姉、祖母、それに小学校低学年の頃までは父の弟も住んでいた。

この家は六浦小学校周辺とその北側に広がる谷戸の当時新しい住宅地の一角にあり、西ヶ谷戸という小字名があった（しかし小学校に近い地域を六浦小学校裏と言っていた）。幼いころは西ヶ谷戸の住宅もまばらだったようで、自宅のすぐ前はまだ田んぼが残っていて、そこでホタル（たぶんハイケボタル）を見た記憶がかすかにある。小学校に入る前には六浦保育園（長生寺に併設されていたらしい）に通っていたが、その保育園はだいぶ前に廃園となった。



ニホンアマガエル（日本雨蛙）

学名： *Hyla japonica*

日本、朝鮮半島、中国東部まで広く分布し、体長は3～4cm程のよく知られたカエルである。指先に吸盤があり「Japanese tree frog」（ジャパニーズ ツリー フロッグ）の名前の通り、木の上での生活に適しており、水から離れた草地などにも棲む。

「雨蛙」の名前の由来は、繁殖期のみならず、雨が降りそうになると鳴くことから。「ゲッゲッゲッ…」と鳴く。体色が変わることもよく知られている。

解説：山田陽治

西ヶ谷戸には北から南へと向かう川があった。源流の1つは北西に位置する「お池」と呼ばれるため池から流れ出て、小さな川となって自宅のすぐ横を通り、小学校の西側と南側に沿って流れていた。北の源流は釜利谷・白山道へと続くトンネル付近からで、六浦白山道線沿いに流れ、ほどなく西南へと向きを変え、「お池」からの川に合流した。この2本とは別に、東の3~4ヶ所からも小さな流れが出ていて、その北側の一部は小学校の北側で「お池」からの川に注いでいたようであり、また南側の一部は小学校の東側を通過して、正門近くで西側の「お池」からの川と合流した。ここから少し流量を増して長生寺の下を通り、原宿六浦線を越えてそのまま南へと向かい、侍従川にそそぎこんでいた。もちろんこれらの流れはすべて、とうの昔に暗渠と化してしまい、いまでは面影すらない。

この川は、侍従川の支流としては決して小さくないので、あるいは支流名もあったかもしれないが、残念ながら記憶にない。

西ヶ谷戸の原風景

西ヶ谷戸をぐるりと囲む馬蹄型の丘は、子どもたちにとってはまるで城壁か山脈のようだった。いま思えば低い丘だが、やや傾斜が急だったためか、ほとんどが雑木林となっていて、そこを越えてよその地域へと行くのは気が引けた。とくに「お池」から登る西方面の丘（現在の高舟台）は山が深く、尾根沿いに小径は続いていたはずだが、小学生の頃は深入りした記憶がない。丘の中で名前が付いていたのは、南東端に位置する「おいせ山」だけで、この地ではシンボリックなイメージをもっていた。ここに登れば、眼下の侍従川から平潟湾と野島、緑豊かな鷹取山、そして東京湾の向こうに房総半島の山々も見えた。

谷戸の中でのシンボルは「お池」であった。三方を雑木林の丘に囲まれたため池で、周囲は50~60mほどだっただろう。北側には小さな谷があり、そこだけはスギ植林地となっており、ごく小さな流れが走って「お池」に注いでいた。池の東半分は崖状だったが、西半分は緩やかなエコトーン状態になっていた。ここにはフナとコイがすんでいて、大人も子どももみなで釣りを楽しんだものである。もちろん「お池」は大学生の頃だったか埋め立てられ、そのすぐ北側は八景台という住宅地に開発された。周辺の地形はすっかり変わってしまい、いまではそれこそ見る影もない。

「お池」の東南端からは水が流れ落ちていて、前述したように自宅の脇を通過していた。この小さな流れにも中小のフナがすんでいて、ハグロトンボも見られた。私の家から池までは直線距離でせいぜい170mほどの短さだったが、その流域（というほど広くないが）は田んぼや畑が広がり、家はまばらで、いま思えば里地的なイメージを感じる。このネコの額ほどに狭い流域も、子どもたちの遊び場であった。

自然の中での遊び

小学生の頃の遊びにはいろいろなものがあった。外での遊びだけでも、虫捕り、釣り、相撲、カン蹴り、竹馬、木登り、メンコ、ビー玉、ベーゴマなどなど。とにかく、同世代の子どもが多かったこともあってか、学校から帰るとわれ先に遊び場に集まって騒いだものである。

西ヶ谷戸を囲む丘は、私有地でもほとんどどこにでも入れた。自分たちだけの秘密の小屋も造った。クズ?の垂れ下がった蔓を使ってターザンごっこも流行った。長いネザサを切ってきては釣り竿にしたり、棒代わりにした。マダケかモウソウチクも切って竹馬の材料としたが、これは叱られないようにこっそりとやったかもしれない。ヤマノイモもどこにでも生育していて、晩秋～冬季には山芋掘りもけっこう盛んだった。秋の味覚としてクリとアケビも重要だった。

東の丘の上には戦時中に造られたらしい四角いプールがあった。もちろん泳ぐためのものではないどころか、周囲すべてをコンクリートで固められていて、危険ゆえ遊泳は禁じられていた。有刺鉄線で囲まれていたが、当時の悪ガキ連中は夏になると、当たり前のように有刺鉄線の隙間から入り込み、そこで泳いでいた（多くはパンツもつけない状態＝フルチンと言った）。私は泳げなかったが、ギンヤンマがお回りしていたので、それを捕えるべくよく通った。あるとき、網を振った勢いでプール内に転落した。幸いにして、みな水遊びに興じていたときであり、年長の者に助けられたが、親に知られるとこっぴどく怒られるので、着物が完全に乾くまでフルチンでいた思い出がなつかしい。

「お池」での釣りはフナやコイだけではない。大きなメダカも多く、私はこれを釣るのが得意だった。浮きの直後にフナ用の小さな針をつけ、水面に投げると、メダカがこの餌に食いつく。しかし口が小さいので針はかからない。それゆえうまく引き寄せ、瞬時に餌に食いついたままのメダカを釣り上げる。また、すでにアメリカザリガニが大繁殖していて、この釣りもよく行った。網で捕まえたアメリカザリガニの腹を胸部から千切り、硬い甲をはがしたものを餌に、真っ赤になった大きな個体（マッカチンと呼んだ）を狙うのである。針は使わず、また糸はテグスでなく木綿糸でも十分だった。

平潟湾での海釣りも盛んだった。ハゼ狙いであるが、まれにカレイもかかった。私が好んだのは、金沢八景駅近くの弁天島からの釣りである。ここでもメダカ釣りの技術がモノを言った。なにしろ海水がキレイなので、水中にいるハゼが見えるのである。八景が本当に八景だった頃である。

つづく

侍従川におけるハゼ類の産卵地点調査



侍従川に入ると川底の石の下で卵(卵塊)の世話をするハゼ類の姿を見かけることがあります。これらのハゼ類は主にチチブ、ウキゴリ、シマヨシノボリであることが多く、いずれも春から初夏にかけて繁殖します。では、いったいこの3種類は、具体的に侍従川のどの地点で繁殖をおこなっているのでしょうか。

- 調査日：2012年4月28日、2012年6月4日
- 調査方法：下流から石の裏を確認していき、卵塊の数および種名、地点名を記録した。また、卵塊の面積および卵塊が付着した石の面積、水深、底の状態、石の位置を記録した。なお、調査範囲は侍従橋から大道橋までとした。

結果



このように、3種のハゼ類は産卵地点を棲み分けていることが分かりました。

ちなみに、ウキゴリの卵塊は6月の調査では確認できず、初夏になる前に繁殖期を終えてしまうようです。一方チチブとシマヨシノボリはウキゴリより少し遅れて繁殖期をむかえていました。また、面白いことに3種とも潮の満ち引きのある泥牛橋より下流からは確認されず、産卵は淡水域でおこなわれることが考えられました。

詳しいこと(産卵期、卵塊が付着した石の大きさや水深、底の状態、石の位置の関係性)は、また改めて報告させていただきます。

(学生部)

3月定例クリーンアップ

【活動報告1】

3月25日（日） 9:00~11:00 晴れ7℃

六浦2号橋～朝比奈橋間の清掃（ゴミ拾い）

細川一雄

参加者：長野政治、長橋輝明、八木場紀元、西澤博厚、石渡博、菊地誠、
高木之靖（パタゴニア）、細川一雄（計8名）

やっと待ちに待った3月になりましたが、相変わらず寒い日が続いていて、今年の梅の開花は1ヶ月近く遅れてしまいました。また、桜の開花も軒並み例年より1~2週間遅れそうで、花見の日程もまだ確定できません。

そんな寒さにうんざりしてきた当日は、久しぶりに晴れて気温も上がり作業をしていると汗が滲むほどでした。

また、昨年末から怪我をして休んでいた八木場さんが5ヶ月ぶりに参加してくれました。体はまだ万全ではないとの事でしたが、休み休み体を慣らしていくそうです。更に、長橋さんの同僚の菊地さんが長橋さんのボランティア活動の話に興味を持ってわざわざ西区から参加してくれました。パタゴニアの高木さんと同じく遠路はるばる参加していただき大変有難うございます。今後ともよろしくお願い致します。

早速ちとせ園の階段の下に廃棄されていた自転車を引上げた後、大道東橋方面から上流に向かうグループと朝比奈橋から下流に向かうグループに分かれて作業開始です。陽の光が大分強くなり草もあちこちで伸び始めましたが、まだまだ丈も短く刈り取るほどでは有りませんので、今回も清掃中心の作業になりました。

2月~3月にかけて、雨が多かった為か分かりませんが、壊れた傘3本を回収しました。また、植木用の緑色のポールと洋ランの鉢にさしている針金を多数拾いました。川沿いで



ちとせ園下の自転車



回収した自転車と7袋分の
ゴミ（傘3本含む）



崖の上の産業廃棄物
何時落ちるか危険

花を育てている人が使わなくなったポールなどをそのまま川に捨てているようです。特に大道東橋の上流で鉢に入っていたと思われる草や木の塊を多数見ました。川沿いにいっぱい置いてある植木鉢の花を用がなくなると引っこ抜いてそのまま川に捨てたようです。



上流域のかけ崩れで川に
落ちた木

作業終了後大道交番に行き、回収した自転車の盗難届けの有無を確認してもらいましたが、届けが出ていないので、このまま金沢土木に処理をお願いしました。久しぶりに喉を潤おして11時20分に解散しました。



また、前日上流域を確認したところ、崖が崩れ木が川に落ちてきていました。木は根っこを残して切られていましたが、水路を塞いでいるため強い雨が降るとそこから川の水が溢れる危険性があります。更に上流の分水路に橋が掛けられていましたがフェンスができていて渡ることが出来ませんでした。

第26回横浜の水辺と緑を考える子ども会議

【活動報告2】

3月25日(日) 金沢自然公園ののほな館 深沢大地&長崎光則

去年の子ども会議は、大震災で中止になってしまったので、僕は今年が初参加でした・・・

最初の準備から参加して、上手くいったのでとても達成感がありました。

午前中は、他の団体の活動が良く分かったし、自分自身もワークショップをとっても楽しめたので、良かったです。



午後の会議は、「外来種も在来種も知って、生き物の命を大切にしよう」という議題をテーマとして、話し合いをしました。

話し合いは、外来種の立場(生き物)・在来種の立場(生き物)・外来種を退治する立場(人間)・外来種を退治するのに反対の人の立場(人間)の4つの立場に分



かれ話し合いをしました。

外来種の楽園を創るなどの思いつかない意見が出たり、人間は無責任だ、などの意見が飛び交い、みんな自分の意見を深く考えたり、又は、考え直したり出来たと思うので、いい機会になったと感じています。(深沢大地)

子ども会議に行きました。去年会議が中止になりましたが今年ではできたので、ぼくははじめて参加しました。そしてあいさつと総合司会をやりました。

初めてなので状況が良くわかりませんでしたけれど、落ち着いてできました。

会議ではぼくはもともと外来種を駆除する側の意見を考えることでしたが駆除することを反対する側に入るように言われて、ちょっとあせりました。うまく意見を言うことができませんでした。考えてみると反対する側の人の言っていることも正しいと思いました。自分が出来ることはやっていきたいと思いました。(長崎光則)



子ども会議の感想

「みんな、良い意見を言っていて、良い討論会だったと思う。」(尾池実)

「まことくんに会えて嬉しかった。ワークショップで来てくれたお客さんに侍従会のことを知ってもらえて良かった。発表は緊張したけど、うまくいったと思う。」(池田周矢)

「午前中は、スイミングがあり準備のお手伝いが出来ませんでした。始まるギリギリに着いたから、午前中の事が分からなくてドキドキしました。私は、初めての参加なので何をやるのか分からなかったけれど、命の大切さが良く分かったし、みんなにも生き物の大切さを知ってもらいたいし、知って欲しいです。また、参加したいです!!」(柴田真穂)

「私は、今回初めて子ども会議に、出たけれど、みんなの意見がすごくいい考えだったので、びっくりしました。在来しゅや外来しゅのことを、もっと知ることが出来たので、よかったです。」(浅野千遙)

「隣の干物や蛙、アカハライモリ等楽しかった。」(田嶋駿一・田嶋広輝)

春の草摘み&野草料理

4月7日(土) 9:00~

【活動報告3】
山田陽治

4/7(土)『春の草摘み&野草料理』が行われました。

放射性物質の心配があるので、下見と当日、放射線量を測定しながらの実施…どこも、 $0.05\mu\text{Sv/h}$ で γ 線も検出されませんでした。

最初に、侍従川源流にある里地に行き、タンポポの花、ツリガネニンジン(トトキ)の新芽、アザミ類の新芽、ノビルを採取。

毒草であるウラシマソウ、カラマツソウ、センニンソウは摘まないように教える。

次の場所では、セリの新芽、ユキノシタの若葉を摘む…そこにはセリに似た毒草もあるのでレクチャーする。慣れれば簡単に見分けがつくが、キツネノボタンやムラサキケマンなどの毒草の見分け方として「匂い」「味」がポイントとなる。セリ独特の風味を覚えて摘む…しかし、リピーターの子どもたちは見てすぐにわかるレベルになっていた(このあとの仕わけ…毒草が混じっていないかチェックするのだが混じってなかった)。

鳥越さんがタラの芽を3本採取したことを僕は知らなかったなので、この後調理されず…(-_-)

モッタイナーイ!(>_<)

セリなどを採取してた子どもたち、好奇心あられるからか?飽きたのか?(^_^)…他にもいろいろなものを探し出した。

匂いのするカキドオシの葉っぱ。タチツボスミシの花。ニホンカナヘビ。フキの葉で柄杓を作って湧き水を飲んだり、水路で水棲生物を探したり…たくさんの春を発見しました。



野草も集まったので、調理会場であるちとせ園へ…すでに花見客の団体が2組あった。

さて、実際に調理をするのだが、だいたい例年通りのメニュー…(^_^)

お母さん方が洗って分けてくれた野草を用意し…

まずは、生のセリをフリーザーパックに入れ、キムチの素を混ぜもみ込む→セリキムチのできあがり(^o^)

続いて、ノビルのぬた和え。

それから、侍従川で採れたオランダガラシ(クレソン)のペペロンチーノ。ノビルの餃子。そして天ぷらとくる…トトキ(「山でうまいはオケラにトトキ」と言われる山菜)、ユキノシタの葉、タンポポの花、桜の花などを天ぷらに。

全ての料理は、子どもたちが率先してこなす(天ぷらも)。頼もしいなあ(^-^)

そして、今回は、スローフード横浜の会長江川正己氏が指導してくださっているので鬼に金棒、心強かった!

最後は、ヨモギ団子で締め。

桜の花のもと、大人も子どもも、お腹も心も満腹になりました。お疲れ様でした。



春の草摘み&野草料理の感想

「日ごろ食べられるとは思っていなかった草が、すごくおいしく食べられて感動した。特に、ユキノシタの天ぷらとヨモギ団子が美味しかった。ヨモギ団子は7個も食べた。」

(とりごえたまき)

「野草をとりながら、魚を捕まえる事も出来て楽しかった。」(田嶋駿一)

「楽しかった。来年も行きたい。」(田嶋広輝)

「野草の事は全く分からなかったけれど、収穫とその後の準備はとても楽しかったです。クレソンのペペロンチーノが最高でした!作られてる方がきちんと召しあがったか気になりましたが…。どうもありがとうございました。」(田嶋美文)

葦船進水式&乗船会

【活動報告4】

4月15日(日) 9:00~12:00

関東学院大学カヌー部漕艇場

廣瀬隆夫

4月14日(土)に開催予定でしたが、雨天で翌日に延期となりました。8時半に鈴木さんのユニック車に、みんなで力を合わせて葦船を積み込み、直接、会場の関東学院カヌー部漕艇場まで運びました。子どもたちは、先生方と恒例の侍従川ウォークを行いました。



今年は、侍従川の葦が不足してリサイクルしましたので、浮力が出るか心配でしたが、2艇の葦船は、どうにか12時まで持ちこたえてくれました。おっかなびっくり初めて葦船に乗った子どもたちも、ひと回りして帰ってくる頃には、慣れた手つきでオールを漕げるようになっていました。小学生からお年寄りまで、みんなの笑顔がいっぱいの楽しい乗船会になりました。



カヌー部漕艇場を快く貸していただいた関東学院大学の安田教授に感謝いたします。また、準備や子どもたちの見守りや後片付けにご協力いただいた皆様、子どもたちに、お菓子の差し入れをしていただいた日産プリンス神奈川の所長さんや所員の方々、ありがとうございました。



学生部新入生歓迎遠足
4月21日(土) 森戸川

【活動報告5】
島村真依

参加者：深沢、廣田、松原、金子、佐野、荒牧、山田、島村

4月21日に新入生歓迎遠足が葉山町にある森戸川で行われました。

まだ4月ということもあり、当日は肌寒く、川の水はひんやりしていましたが川に入り生き物探しをしました。途中の支流を上の方までたどって生き物を探したり、誰かがついていた木のブランコで遊んだり、色々なことをしながら上流に向かいました。

砂防ダムに着き、お昼ごはんを仲良く食べました。昼食後もダムで生き物探しをしたり、植物を観察したりしました。

そして、帰り道に水たまりでサンショウウオを発見しみんなで観察しました。

今回の遠足で仲間の輪をさらに広げることができました。また、たくさんの生き物とも出会え、とても充実した1日となりました。



4月定例クリーンアップ

【活動報告6】

4月22日(日) 9:00~11:00 曇りのち小雨 14℃

大道東橋~大道橋~朝比奈橋(ゴミ拾い、草刈り)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、八木場紀元、村田章夫、石渡博、角田繁、外川忠志、
廣瀬隆夫、高木之靖(パタゴニア)、細川一雄(計10名)

桜もすっかり葉桜となり、ちとせ園には落ちた桜の花びらがまだ大分残っていました。2週間前の花見の余韻を思いだしながら今年度最初のクリーンアップの準備を行います。もう直ぐ5月というのに当日は気温14℃と少し肌寒い状態でした。とは言え、川の緑は確実に濃くなり、草の丈も大分伸びてきています。

今回はゴミ拾いをメインに実施する事にして、草刈り用のカマは数人が持ち、全員ゴミ袋を持って上流と下流に分かれます。上流担当者たちは里野橋から、下流担当者たちは大道東橋から川に下りて作業開始です。

途中長く伸びた草を刈りながらゴミを拾います。上流部隊は大道橋の上流で一輪車を回収し下流に向かいます。途中で重くなったゴミ袋を外川さんが軽トラックに積み込みます。

10時を少し回った頃に雨が降りだしました。当日の天気予報では午後からの雨予想でしたが、少し早まったようです。しかし雨脚が弱いので作業に支障は無いと判断し作業を続行します。11時少し前に作業を終了し、先日の花見で残っていたお酒を少々飲んで解散しました。



回収したゴミ(10袋)と一輪車

★ふるさと侍従川に親しむ会メールマガジン【びりんご通信】が、まぐまぐ!から配信されています。<http://mobile.mag2.com/mm/0001435471.html> から登録できます。

☆『侍従川かわら版』1.侍従川のカモ、2.侍従川流域のカエルは、ホームページ <http://jijyukai.web.fc2.com/> からご覧ください。

★Facebook「グループふるさと侍従川に親しむ会」ができました。

潮干狩り&干潟の生きもの観察会 in 野島
5月6日(日) 野島海岸・野島公園キャンプ場

【活動報告 7】
田嶋美文

晴天のもと、潮干狩りが行われました。

自己紹介等の後、干潟で貝を掘りました。私を含めて皆が掘る事に夢中のように、マテ貝狙いの子は塩が入った容器を片手に真剣な顔で砂を掘り、穴を覗いていました。

貝がたくさん捕れた頃、貝以外の生き物を探し始める子が出てきて、男の子たちがウミウシをバケツに入りきれない程たくさん捕まえました。こうたろう君の顔よりも大きい特大ウミウシも。他にナマコやカニも捕まえました。

その後はお弁当を食べてキャンプ場で山田さんによる捕まえた生き物の説明タイムでした。子どもたちが山田さんの周りに集まり、とても真剣に聴いていました。

説明の後はお待ちかねの試食です。アサリ入り塩バターラーメンは子どもたちから大好評で大人は食べる事ができませんでした。試食の間に木登りをしたり、キャンプ場そばのピオトープでザリガニの赤ちゃんやオタマジャクシ、赤虫を捕まえた子もいました。

捕れた貝はマテ貝、アサリ、バカ貝、カガミ貝、ハマグリでした。楽しくて美味しい一日をどうもありがとうございました。



侍従川大掃除

【活動報告 8】

5月19日(土) 9:00~11:30 晴れ

潮見橋~二の橋(下流班)、二の橋~朝比奈橋(上流班)

細川一雄

参加者：鈴木悠悟、玉利海太郎、深沢大地、石渡音伽、大橋康太郎、石渡久美子、石渡雄梧、飯岡学、廣瀬颯大、佐藤友哉、金子英司、金野光流、島村眞依、北村肇、鳥越昌三、鳥越典子、鳥越たまき、鳥越龍、相川元治、堀江沙織、長野政治、角田繁、八木場紀元、西澤博厚、村田章夫、石塚正夫、外川忠志、廣瀬隆夫、山田陽治、押田健、細川一雄 (計31名)

当日8時に資材を持ち込み、8時50分にスタッフに当日の実施内容を説明し、班長を決定しました。

9時20分、実施責任者の細川から注意事項等の説明を行った後、上流班と下流班に分かれて各活動場所に移動しました。

<下流班の清掃風景>・・汐見橋~二の橋



汐見橋下流



高橋下流



諏訪の橋下流

＜上流班の清掃風景＞・・朝比奈橋～二の橋



大道橋上流



第二山王橋上流

約1時間半の作業の後、11時に各班共ゴミ拾いを終了し、ちとせ園に順次集合し子どもたちにお菓子とアイスキャンディを渡します。土嚢袋で17袋分のゴミが回収されました。休憩後県営住宅跡地に移動しゴミを前に記念写真を撮って解散しました。



ちとせ園で一休み



＜参加者の皆さんと回収されたゴミ＞



＜＜ 参加者の皆さん 有難うございました！！ ＞＞

フレンドまつり（ザリガニ釣り）
5月19日（土） 大道小学校

【活動報告 9】
寺尾勝廣

5月19日(土)に開催された六浦西地区フレンドまつりにおいて侍従会はザリガニ釣りを開催しました。侍従川の大そうじとバッティングしていたため、何名かをザリガニ釣りの運営に派遣することを考えましたが、過去の経験から1名でも運営が可能と考え私寺尾でこの任に当たることになりました。

当日は、天気も良く室内発表に多くの観客が詰めかけていました。室内発表は予定時間より早く終わったのですが、屋外での大道中学校の演奏はプログラムどおりの時間で行うとの放送が入りました。この時、私は、廣瀬さんが用意してくれた竹枝を釣竿に仕立て始めたところでした。そのとき、一人の少年が「ザリガニ釣りできるの～」と聞いてきたので、軽く「いいよ～」と返事をしてしまいました。これからが大変、まつりが終わるまでの2時間半は大賑わい。〈フライングをしてしまいました。ごめんなさい〉

竿は大小合わせて30本以上作りましたが、順番待ちの子どもたちの行列もできてしまいました(;-;)。準備不足でごめんなさい。トンボ池で大喜びの子どもたちは、釣りあげたザリガニを大型のプラ箱（2個）にいれてくれました。そのプラ箱に釣り糸を垂れるのは小さな子どもたち。押し合いへし合いの状況で“目”を竿で突かないかとヒヤヒヤものでした。事故がなくてよかった、ホッ。おかあさんからの「子どもにザリガニの掴み方を教えてほしい」とのリクエスト、こわごわと子どもは背中に指をそえてつかんだ後の喜んだ顔は最高の笑顔でした。絡んだ糸を「取って～」との黄色い声。「いるいる」、「ヤッタ～」の大歓声。大騒ぎのトンボ池でした。

子どもたちの奮闘によって外来種のアメリカザリガニ40～50匹はトンボ池を去りましたが、閉会后に静寂のおとずれたトンボ池の底を歩く1匹のザリガニを見かけました。戦いはまだ終わっていません。次の機会は読者の皆さんの力をぜひ貸してください。



5月定例クリーンアップ

【活動報告 10】

5月27日(日) 9:00~12:00 晴れ 25℃

朝比奈橋(三信住宅入口)~大道東橋(ゴミ拾い)

細川一雄

参加者:長橋輝明、西澤博厚、角田繁、八木場紀元、村田章夫、石渡博、石塚正夫、
廣瀬隆夫、徳丸東洋男、徳丸瞳真、中藤大治、高木之靖、細川一雄(計13名)

そろそろ入梅の話がチラホラ出てくる頃となりましたが、当日は晴天で気温も25℃と少し作業をすると汗ばむ天気でした。この日は九州に引越した徳丸さんがお孫さんを連れて参加してくれました。久しぶりの再会にメンバーと積もる話が盛り上がりました。

メンバーを大道橋上流の草刈りと、下流から上流全域のごみ拾いの2つに分けて作業開始です。久しぶりに草刈り機を引き出し、徳丸さんと西澤さんと交代で草刈り機を操作します。昨年ハチの巣がありメンバーが刺された場所や青大将に咬まれた場所ですので慎重に草刈りを進めます。徳丸さんのお孫さんは土嚢袋を持ってメンバーの間を行ったりきたりして一生懸命ゴミを拾ってくれました。

10時少し前に休憩をとり、横浜屋の開店と同時に花茶とアイスクャンディを購入し乾いた喉を潤おします。

15分ほど休憩し作業を再開しました。昨年よりメンバーの人数が多く、さらに当初の予想より大分作業効率が上がり、昨年は2ヶ月かけて行った草刈り区間を今回は一気に終了しました。

今回は車の手配が出来ないため、刈り取った草の一部を紐で束ね、乾燥して軽くなる次回に引上げることにしました。ちとせ園で喉を潤おしながら一休みして12時前に解散しました。



横浜屋の駐車場から川に降り作業開始



草刈り途中(奥:未実施)



飲み物を飲んで一休み



護岸の草も刈り取ります



回収されたゴミ



草刈り後

トピックス

◎佐野真吾君が、朝比奈小学校ホタル池守る隊 副会長に就任。

◎4/29 よここネット（横浜子どもと自然のネットワーク）春の虫とり大会終了後に第26回横浜の水辺と緑を考える子ども会議反省会が行われました。（横浜自然観察の森）出席…深沢、金子、河本（希）、島村、成島、佐野、山田



◎5/5「モリゾー・キッコロ森へいこうよ！」（NHKE テレ）野島海岸撮影が放送。山田出演（再放送5/10）



◎5/17 大道小学校 侍従川清掃…長野副会長、石渡、村田、細川、山田がサポート

大道小学校のトンボ池から流れ出る水、その流れにのってメダカの稚魚が侍従川へとあられていきました。飛び立ったトンボたちが、侍従川にそって海を見に行ったり、森を見に行ったりしていました。

そして子どもたちが、遊べる川・侍従川が復活しました。
1990年ごろのお話です。

文 尾上伸一



イラスト 土屋美沙都

佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～会長の同級生は昆虫学者？～

1996年、神奈川県レッドデータブック“追われる生き物たち—神奈川県レッドデータ調査が語るもの—”という本が神奈川県立 生命の星・地球博物館から出版されました。この本は神奈川県に生息する絶滅の恐れのある生物をランクに示して解説しており、まだ小学生であった私も大きな衝撃を受けました。現在よく使われる“絶滅危惧種”という言葉もこのレッドデータブックのランクの一つです。

さて、今回のお話は2001年の秋からスタートします。ある日、いつものように学生部隊長の山田さんから1本の電話がかかってきました。「今度の定例調査の後、相川会長の同級生で、有名な昆虫学者の先生が来てくれるんだけど、サノシン空いてる？いろいろアドバイスをいただこうと思ってるんだ！」会長の同級生の昆虫学者？“昆虫学者”という響きに憧れを持っていた私は、いったいどんな人なんだろう！と、ワクワクしながら即座に参加を決めたのでした。そして当日、「山田さん？相川会長の同級生の昆虫学者さんってどんな人なんですか？」「う～んとねえ。すごく親切でいい人だよ！カミキリムシの専門家で高桑さんっていうんだよ！」「高桑さんって、もしかして博物館の学芸員で神奈川のレッドデータブックの昆虫担当の高桑正敏さんですか！？」「そうそうよく知ってるね☆他にもいろいろな図鑑に名前載ってるよね！」すげえ！高桑正敏さんと相川会長って同級生だったんだ！こうしてはいられない！私は定例調査後、県内で採った自慢の標本を見てもらいたくて、急いで家に取りに戻ったのでした。

ちなみに高桑正敏さんとはどのような人物なのか、ここで勝手に紹介させていただきます。高桑さんは侍従川流域の六浦町で生まれ育ち、その後、神奈川県立生命の星・地球博物館の学芸員として昆虫界に多くの業績をもたらした方です。ちなみに子どもたちの憧れ“ヘラクレスオオカブト”のブラジル亜種には、“*Dynastes (Dynastes) hercules takakuwai*”というように高桑さんの名前が付けられています。



さて話しは戻り、私が集合場所に戻ると、山田さんと高桑正敏さんと思われる人が会話をしている、学生部メンバーも数人集まっていた。そしてその場で軽く挨拶をし、大道小学校の隣にあった“サンデーサン”（現在はココス）に向かうことになりました。

サンデーサンに到着し席につくと、早速山田さんが、私と二つ年上の熊井くん（会報の侍従川生き物図鑑・琉球生き物紀行の連載を担当）を紹介してくれました。「彼らが学生部の昆虫系のエース、熊井くんと佐野くんです。いろいろご指導をお願いします。」「おお～頼もしいねえ！侍従会もちゃんと若い子が育ってるっていうのがすばらしいね！」高桑さんはニコニコしながら言いました。

こうして高桑さんには1時間程、昆虫に関するお話をしていただきました。中でも印象に残っているのはシロスジカミキリ（大型のカミキリムシの1種）を例にあげた里山についてのお話で、シロスジカミキリは人里で管理された雑木林、いわば里山環境を好むカミキリムシであり、近年は雑木林が放置され荒れてしまったことによって少なくなってしまったそうです。

「もちろん昔は侍従川周辺も里山だったんだよ。里山ってというのは雑木林に限ったことじゃなくて、田んぼとか川も里山の一部だから、人が手入れをしなくなったら荒れてしまって生きものもいなくなってしまう場合も多いんだよ！だから侍従会の活動は里山を守るという面でも重要かもしれないね！」。

私が“里山”という言葉聞いたのはこの時が初めてで、すごく印象に残っています。こうして有意義な時間はあっという間に過ぎていきました。「じゃあ最後に聞きたいこととかない？なかなかこんな機会ないから聞いといたら？」と、山田さんに言われ、私ははっと思い出し家から持って来た標本を取り出しました。見ていただいたのは逗子市で採集したマルガタゲンゴロウとシマゲンゴロウの標本であったことを今でも覚えています。「おお！！これは珍しいよお！是非発表してよ☆」。この日、最後に高桑さんに褒められた私はルンルン気分で帰宅した記憶があります。

さて、月日は流れ、私が高桑さんと再会したのはそれから7年後の大学3年生の時でした。ゼミの授業で、博物館に高桑さんの講義を受けに行くことになっ



たのです。私が挨拶に行くと、最初高桑さんはキョトンとしていましたが、“侍従会の”
と言うと、すぐに分かってくださりました。「おお！！顔とかは覚えてないけど、いつも
ダボハゼ通信読んで、頑張ってるんだなあって思っていたんだよ！山田くんは元気にや
ってるかい？」

こうしてこの機会をきっかけに、今に至るまで、高桑さんには本当にいろいろなことで
お世話になりました。そして、ダボハゼ通信の《私が子どもだった頃》をお願いした時も、
「少しでもお若い人たちの参考になれば幸いです。」と快く引き受けてくださいました。
侍従川流域のお話をたくさん書いていただいたので、皆さん是非ご覧ください。

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』 つづく

《侍従川流域 生き物発見記録》

☆4/28 侍従川二の橋付近でシマヨシノボリの産卵を
初発見①…学生部

☆4/28 侍従川かくら橋付近、ダビドサナエの羽化殻
を発見（侍従川流域で4例目）②…佐野特派員

☆5/5 朝比奈町蛭谷戸でダビドサナエ成虫を撮影③
（侍従川流域で5例目）…佐野特派員

☆5/11 アユの遡上確認（二の橋付近）…鶴岡氏

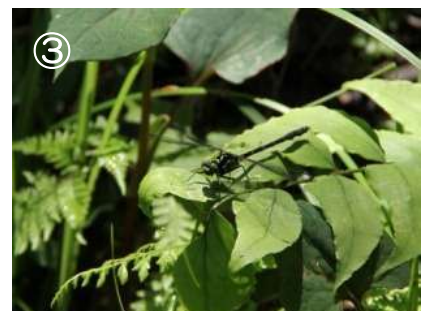
☆5/12 朝比奈小学校産アサヒナカワトンボを11年
ぶりに再確認④…佐野特派員

☆5/17 アユ2個体（3cm、5cm）捕獲…山田特派員

☆5/19 朝比奈切り通し（金沢区側）でシマヘビ・
ジムグリ発見⑤…佐野特派員

☆5/26 ゲンジボタル初見1♂（大道中学校）
…白石、竹内特派員

☆5/28 ゲンジボタル 10~30 個体（侍従川中流域）
…荒川、飯村、廣瀬特派員





だより

歴史資料館リニューアル始まる

大道小コミュニティハウスの2階に、「歴史資料館」があります。大道小学校50周年事業の一つとして、地域にある民具や農具等を、集めて展示してきた民族資料館です。

設立から約20年を経て、地域から寄贈を受けた品々が増えたことや、乾燥や湿度で展示物の保存状態が悪くなってしまったこともあり、5月から点検・補修作業を始めました。

作業の内容は、現在300点以上ある寄贈品のリストを作って分類をするために一つ一つの品に番号をつけています。整理をしていると、思いがけず、懐かしい品物が出てきて見入ってしまったたり、使い方がわからなくてみんなで考え込んでしまう時もありますが、それがかえって楽しいひと時となっています。



侍従川や海で使ったと思われる漁具も多数展示されています。

大道小学校の5年生の子どもたちが大人と一緒に活動しています。



みなさん、いっしょに作業をしてみませんか？

毎週土曜日

13:00~16:00

やっています。

虫のきょういく座談会 ～頭にタオルを巻くとプロっぽい?～

参加者：熊井、佐野

今回の座談会は遙か南の地、沖縄県国頭村ヤンバルの森のふもとにあるファミリーマートからスタートする。2012年5月末に筆者佐野は沖縄を訪れた。目的はもちろん虫とりであるが、もう一つの目的は、ダボハゼ通信の連載“侍従川生き物図鑑”と“琉球生き物紀行”を担当している熊井健氏と会うことであった。

熊井氏は侍従会の学生部時代を共に過ごした仲間であり、最も古い生きもの屋仲間として尊敬する先輩でもあった。2009年に単身沖縄に移住し、現在は昆虫写真家として沖縄島北部を中心にヤンバルテナガコガネをはじめ数多くの希少生物の撮影に成功している。

佐野「どうも～久しぶりです～☆」

熊井「おぉ～久しぶり～☆前に遊びに来てくれた時からもう2年経つんだねえ！」

佐野「早いですねえ！僕はもう25歳ですよ（笑）ところで今回もいろいろ生き物見られ
そうですか？☆」

熊井「サノシンの注文通り2年前は外したオオイチモンジシマゲンゴロウもカラスヤンマ
もばっちりだよ☆特にカラスヤンマは一昨日見た時は大群で乱舞だったよ！！」

佐野「ホントですか☆楽しみだなあ～♪」

こうして二人は生きものを求めヤンバルの森に入ってしまった。熊井氏とは虫とりをしながらいろいろな話をした。虫の話から、仕事の話、侍従会の人たちの話、自分たちの将来の話など話題は尽きることがなかった。しかしその中でも特に印象に残った話を今回の座談会に取り上げたいと思う。



アカタマを撮影する熊井氏

熊井「10月のヤンバルはある理由で大渋滞が起
るんだよ！」

佐野「オキマル（クワガタ）狙いの採集者の渋滞ですか？…（笑）」

熊井「そう！その時期ヤンバルの林道に行くと何十台も車とすれ違って、いつもはガラガ
ラのダムの駐車場も満車になるんだよ！まさにオキマル渋滞！」

佐野「うわあすげえ！！そんなに来るんですか！」

沖縄本島北部に分布するオキナワマルバネクワガタ（通称“オキマル”）は、国内に生息するマルバネクワガタの中では最も大型で人気も高い。そのため、発生時期になると沖縄県内はもちろん本土からもたくさんのマニアが採集目的でやってくるそうだ。

熊井「けど中にはタチの悪い人も結構いてね…クワガタ以外の林道に出てくる生きものは気にもせず車でひいちゃう人とか、100匹くらい乱獲する人とか、マナーの悪さも目立つんだよね…」

佐野「採集者のマナーの悪さはホントよくないですよね！」

熊井「だから俺は誰も入らない林道からさらに道を外れたところを探して、そこで撮影するんだけど、それでも採集者に会う時があるんだよ！！」

佐野「おお！！それは相当な上級者なんじゃないですか？」

熊井「そうそう！そういう所で会う人って、イメージ的には頭にタオルを巻いてて、いかにもプロっぽい感じの人だね（笑）」

佐野「あははは（笑）確かに頭にタオル巻いてるとプロっぽく見えますよね（笑）」

佐野は笑いながら横を見ると、熊井氏もちゃっかり頭にタオルを巻いていることに気付く。その視線に気づいた熊井氏も恥ずかしそうに、

熊井「まあ…俺の場合はタオル巻いているだけで全然上級者じゃないけどね…（笑）」

佐野「いやいや（笑）謙虚ですね（笑）十分上級者じゃないですか！（笑）」

とまあ、お互いフォローを入れ合ったのであった。

佐野「でもホントにタオル巻いてるとプロっぽく見えますよね（笑）山田さん（山田陽治氏）も昔からよくタオル巻いててプロっぽく見えました！（笑）」

熊井「子どもの頃、地元（横浜）の森でクワガタ採りに通ってたら、ある日頭にタオルを巻いた採集者に出会って、ああもう負けた！この森にプロが入って来たんだ…って思ったことがあったよ（笑）」

佐野「なるほど（笑）面白いですね（笑）」

こうして、時折このようなふざけた話もしながら二人で夜中の12時過ぎまで生きもの探しをした。そしてその日は、熊井氏が帰宅後一人で車中泊をし、最終日を迎えた。最終日、佐野はダボハゼ通信に載せようと思っていた熊井氏との記念写真を撮りわすれている



アカタマと戯れる熊井氏

ことに気付き、しかたなく三脚を立て、一人さみしく記念撮影をすることにした。その時思い出したのが、昨日熊井氏と語った“頭にタオルを巻くとプロっぽい”話である。さて、一人さみしく記念撮影をした佐野は、果たしてプロっぽく見えるだろうか…。これについては、あとからこの座談会を読むこととなる熊井氏に判断を委ねたいと思う…。

(おわり)



カラスヤンマを持つ佐野
プロっぽいか!?

朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～

飯村優介

夏にかけての食用キノコの紹介を終えたので侍従川源流から見える高い山の谷へ至る忍者の記憶。

今の朝比奈小付近の住宅地が、侍従川溪谷の最高の滝のある美しい谷でした。その最奥の滝は今もユウカリ園奥の荒地地先に見る事が出来る。荒地の藪をこぐと水のしたたる滑滝がある。数段に連なりあわせると10mくらいある。手掛かりの多い崖を木の根や笹も使い巻きあがり、行ける。

滝は直登、滝上で水は消え藪こぎがさこそハイキング道に出て終わり。小学生の頃の訓練でした。

さまざまな基本は高い山の大溪谷でもルートを見つけて進む技術となる。

十二所山頂から見える神奈川の屋根、丹沢連峰の奥、檜洞は豊かなブナの森を流れる谷です。

大きなエメラルドグリーンの釜や連なる滝、溪流魚や蛙たち、よくみかける鹿、登山道はないため玄人だけのしずかな旅のできる秘境がそこにあります。写真はその旅レポートです。



侍従川生き物図鑑 No.16

～ ミヤマクワガタ ～ (クワガタ科)

学名：*Lucanus maculifemoratus*

体長：♂43～72 ミリ、♀32～39 ミリ 分布：中流域から上流域



横浜市金沢区 7月

張り出した頭、太い歯が並び、力強い印象を受ける大あご。もはや虫採り少年ならだれもが憧れるクワガタムシといえるでしょう。流域では主に上流周辺の雑木林で見られますが、数は少なく、観察例は稀です。基本的に涼しい環境を好むクワガタなので、明け方にクヌギやヤナギ、コナラなどの樹液を探すと良いでしょう。本種に限らず、平野部に生息する大型のクワガタムシはたいていカブトムシなどがまだ少ない6月頃から現れ、晩夏の8月には数が減ります。

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ ハロウエルアマガエル ～

学名：*Hyla hallowellii*

体長：30～40ミリ

分布：喜界島、奄美大島、加計呂麻島、徳之島、沖永良部島、与論島、沖縄本島北部

本土のニホンアマガエルより一回り小さいアマガエルで、名前から一見外国からの帰化種ではないかと思われがちですが、れっきとした在来種です。すみかは田んぼや池、川沿いに生える木の高い場所。泣き声はギーギーと日本アマガエルの声よりすこしとがって甲高い感じに聞こえます。繁殖期以外はバラバラに暮らしているので、その時期は探すのに少し難儀するかもしれません。



国頭村 5月

監修：熊井 (沖縄在住)

侍従川定例調査報告 学生部

4月28日(土) 15:25~16:05

【諏訪の橋付近～泥牛橋付近まで】

気温：28℃ 水温：18℃～17℃

塩分濃度：1.8‰

生き物：ボウズハゼ1(侍従川初記録)、コウロエンカワヒバリガイ1、
タテジマイソギンチャク1、フジツボSP1、クサフグ1(目視)、ハゼSP1、
チチブ34

川の様子：干潮に近いので水深は浅い、比較的石が多い、少シアオサ(?)が生えている。

ゴミ：空き缶2、カッター等々!!

備考：ハゼの卵塊調査もしたが、チチブの卵塊は見つからなかった、これは、時期がまだ早いものとみられる。



事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆6月～8月の活動予定◆

☆6/24 (日) 定例クリーンアップ 9:00 ちとせ園集合

☆7/14 (土) 侍従川歩き&大調査

☆7/22 (日) 定例クリーンアップ 9:00 ちとせ園集合

☆8/11 (土) いかだ作り

☆8/12 (日) いかだ下り

☆8/19 (日) 夏休み野外教室

☆8/26 (日) 定例クリーンアップ 9:00 ちとせ園集合

※定例クリーンアップは雨天延期・翌週日曜

★ジュニアキャンプは未定です。

◎活動の詳細(集合時間・場所、持ち物など)は、別途配布の活動予定又はホームページをご覧ください。<http://jijyukai.web.fc2.com/>

◎学生部の活動は別途連絡します。

『ふるさと侍従川に親しむ会運営ミーティング』
毎週第四土曜日 16:00～17:00 (変更あり)
大道コミュニティハウス 図書室



■2012年度会費納入のお願い

4月から新年度になりました。新年度分の会費の納入をお願いいたします。現金での支払いは間違いのもとになりますので必ず郵便局払込票で支払ってください。

口座記号番号：00230-5-68634 加入者名：ふるさと侍従川に親しむ会

年会費：学生部・ジュニア 1,500円 大人 3,000円

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局 長橋 輝明

TEL&FAX：781-4042 e-mail：jr-nagahashi@seaple.icc.ne.jp

《編集後記》 今回の注目は、学生部による「侍従川におけるハゼ類の産卵地点調査」(4ページ)です。ハゼの種類によって産卵地点の棲み分けがくっきりと出ています。また、尾上&土屋の師弟コンビも久々の登場です(18ページ)。会の発足当時の様子がよくわかります。(MK)